

## 淀川水系淀川左岸ブロック穂谷川の河川整備の再々評価調査

### 1 事業概要

事業名	一級河川 穂谷川 河川改修事業
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 地域河川・ダムグループ (連絡先 06-6944-6039)
事業箇所	淀川水系穂谷川 流域面積 14.4km <sup>2</sup> 馬場前橋上流～新上渡場橋下流
再評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中
事業目的	淀川水系穂谷川は、時間雨量80ミリ程度の降雨(100年に1回程度発生するおそれのある降雨)による洪水で床上浸水を防ぐことを当面の治水目標として河川改修事業を実施し、治水安全度の向上を図る。
事業内容	【河川整備計画】 改修内容：河道拡幅・河床掘削 改修延長：L≒約6.6km 整備対象区間： 馬場前橋上流～穂谷川新橋(1.1km～3.4km) 穂谷川新橋～山田池橋(3.4km～4.4km) 山田池橋～新上渡場橋下流(4.4km～7.7km)
事業費 ( )内の数値は 前回評価時点のもの	全体事業費 : 約41億円(約31億円) うち投資済事業費(令和5年度末): 約19.7億円 【内訳】 工事費: 約38億円 うち投資済工事費: 約17.7億円 用地費: 約0.8億円 うち投資済用地費: 約0.8億円 調査費: 約2億円 うち投資済調査費: 約1.2億円
事業費の変更理由	【事業費変動要因の状況】 ・社会的要因(物価、人件費等の上昇)による事業費の増加。 ・仮設工法の変更による事業費の増加。
維持管理費	約0.21億円/年(治水経済調査要綱に基づく事業費の0.5%/年)

### 2 事業の必要性等に関する視点

	前回評価時点R1	再々評価時点R6	変動要因の分析
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	<p>【洪水発生時の影響】</p> <p>浸水想定面積：約478.5ha 浸水家屋：約15,500世帯 ※河川整備計画で定められた100年に1回程度の降雨規模の浸水面積・浸水家屋(世帯)</p> <p>社会情勢について、下記のとおりである。</p> <p>(枚方市人口等の動向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口 H27：404,152人</li> <li>世帯数 H27：167,418世帯</li> <li>事業所数 H27：10,102所</li> <li>就業者数 H27：113,799人</li> </ul> <p>※人口、世帯数は平成27年度国勢調査、その他は平成27年度大阪府統計年鑑より</p>	<p>【洪水発生時の影響】</p> <p>浸水想定面積：約478.5ha 浸水家屋：約16,100世帯 ※河川整備計画で定められた100年に1回程度の降雨規模の浸水面積・浸水家屋(世帯)</p> <p>社会情勢について、下記のとおり人口や事業所数は微減であるが、世帯数、就業者数は増加している。</p> <p>(枚方市人口等の動向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口 R2：397,289人</li> <li>世帯数 R2：172,253世帯</li> <li>事業所数 R2：10,074所</li> <li>就業者数 R2：120,556人</li> </ul> <p>※人口、世帯数は令和2年度国勢調査、その他は令和2年度大阪府統計年鑑より</p>	<p>H27比1.7%減 H27比2.9%増 H27比0.3%減 H27比5.9%増</p>
地元等の 協力体制等	<p>○「アドプト・リバー・プログラム」を活用し、地域住民や団体などとの連携・協力により、遊歩道等の美観を維持するため、美化活動が実施されている。</p> <p>○自治会や小学校区などの地域単位で、台風などの災害時における適切で円滑な防災行動・避難に向けて、防災の専門家による講演やコミュニティタイムラインの作成に向けた勉強会を開催し、防災意識の向上に取り組んでいる。</p>		
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	<p>・総便益/総費用 (B/C) = 120.9 便益総額 B = 3,700.48億円 総費用 C = 30.60億円 事業費 27.52億円 維持管理費 3.08億円</p> <p>【算定根拠】 治水経済調査マニュアル(案) H17.4 各種資産評価単価及びデフレクター H31.3 改正</p>	<p>・総便益/総費用 (B/C) = 88.7 便益総額 B = 4,321.10億円 総費用 C = 48.69億円 事業費 44.13億円 維持管理費 4.56億円</p> <p>【算定根拠】 治水経済調査マニュアル(案) R6.4 各種資産評価単価及びデフレクター R6.6 改正</p>	<p>・治水経済調査マニュアル(案)の改訂による被害額算出方法の変更</p>

	前回評価時点 R1	再々評価時点 R6	変動要因の分析
事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)	<p><b>【安全・安心】</b> ○時間雨量 80 ミリ程度の降雨(100 年に 1 回程度発生するおそれのある降雨)による床上浸水を防ぐことを当面の治水目標としている。</p> <p><b>【活力・快適性】</b> ○堤防沿いに自然巡回路や桜並木が整備され、周辺の自然環境や田園風景にとけ込んだ空間となっており、山田池公園周辺では、河川改修に併せて、親水性や自然環境に配慮した整備を行うなど、憩いとやすらぎの空間として活用されている。</p>		
事業の進捗状況 <経過> ① 事業採択年度 ② 事業着工年度 ③ 完成予定年度	<p>①2014 年度 (平成 26 年度)</p> <p>②2014 年度 (平成 26 年度)</p> <p>③2032 年度 (令和 14 年度)</p>	<p>①2014 年度 (平成 26 年度)</p> <p>②2014 年度 (平成 26 年度)</p> <p>③2038 年度 (令和 20 年度)</p>	・仮設工法の変更に より作業効率が低下 したため
<進捗状況>	<p>・全体 35%</p> <p>※事業費ベース</p>	<p>・全体 48%</p> <p>※事業費ベース</p>	
事業の必要性等に関する視点	<p>・穂谷川では、未改修区間にて、河川整備計画規模相当の降雨(時間雨量 80 ミリ程度の降雨)が発生した場合に床上浸水のリスクがあり、人命や資産に甚大な被害が生じるおそれがあることから、河川整備が必要不可欠である。また、気候変動の影響により降水量の増大などが予測されている。これらを踏まえると、継続して河川整備を進めることにより浸水被害を解消する必要がある。</p> <p>・現時点で再度、穂谷川の費用対効果を算出したところ、B/C は 88.7 であり、河川整備の経済的便益性も確認できる。</p>		

### 3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	<p>・「淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画(H27.3)」及び「大阪府都市整備中期計画(案)(R3.3改訂)」に位置付けて事業を進めており、R5年度末で、事業の進捗は48%程度である。</p> <p>・これまでも河道改修を推進し、治水安全度の向上に努めており、令和20年度の完成を予定している。</p>
--------------	---

### 4 コスト削減や代替案立案等の可能性の視点

コスト削減や代替案立案等の可能性の視点	<p>・ストックヤードを活用し、工事用進入路を設置する際に使用する土砂の再利用を図り、また、工事により発生する土砂の他工事への流用を図る。</p> <p>・改修工事にあわせた河川への恒久坂路等の設置を検討し、コスト削減及び施工効率の向上を図る。</p>
---------------------	--

### 5 特記事項

自然環境への影響とその対策	<p>多様な生物の生息について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚類は11種、底生動物は76種が確認された。</li> <li>・重要種としてはタモロコ、ウキゴリ、ミナミメダカなどが確認されている。</li> </ul> <p>多様な生物の生息・生育環境を保全するための対策</p> <p>①水質保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域市の環境部局による行政指導や下水道施設の整備等により水質は改善されてきている。また、地域住民、学校、NPO等と連携し、生活排水による河川への負担軽減に向けた環境教育・学習の推進、及び啓発活動等を進めることにより、水質の保全に努めている。</li> <li>・穂谷川における水質汚濁の環境基準はB分類に指定されており、前回評価時点と同様、環境基準を満足しており、工事による大きな影響は見受けられない。(淀川合流部地点)</li> </ul> <p>②生物移動の連続性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落差工の改築を多段式で行うなど、上下流の生物移動の連続性の確保に努めている。</li> <li>・H24に比べ全体の傾向として、確認個体数が増加している。</li> <li>・R1～R5年度の工事箇所におけるH24とR4の調査結果を比較したところ、個別の魚種では増減があるものの、工事後の箇所においても継続的に重要種が確認されるなど、工事による大きな影響はないと考えられる。今後も工事による影響がないか、引き続き、環境調査を実施する。(淀穂枚1地点、淀穂枚2地点)</li> </ul>
前回評価時の意見 具申と府の対応	<p>(令和元年度大阪府河川整備審議会による審議)</p> <p>「令和元年度大阪府河川整備審議会」の審議をもって事業再評価とし、本審議会において了承を得た。</p>
上位計画等	<p>大阪府都市整備中期計画(R3.3改訂)</p> <p>淀川水系河川整備基本方針(H19.8)</p> <p>淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画(H27.3)</p>
その他特記事項	<p>(河川防災情報の提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市による洪水ハザードマップの作成</li> <li>・現況での洪水氾濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、淀川左岸ブロックの洪水リスク表示図を開示している。</li> <li>・山垣内橋や出屋敷橋、満穂橋に河川カメラを設置し、河川の洪水リスクや現況水位とともに映像をインターネットで公開している。</li> <li>・大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市とホットラインを構築し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供。</li> </ul> <p>(流域治水の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北河内地域水防災連絡協議会で「流域治水プロジェクト」を令和3年度に策定。進捗管理や情報提供を毎年行い、対策内容の充実・強化やフォローアップを実施しながら、計画的に流域治水を推進していく。</li> </ul> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆積土砂については、現況のみお筋を可能な限り保全しながら土砂の撤去を行うなど河道特性に応じた維持管理を実施している。</li> </ul>

6 対応方針（案）

<p>対応方針（案）</p>	<p>○継続          &lt;判断の理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・穂谷川では、未改修区間にて、河川整備計画規模相当の降雨（時間雨量80ミリ程度の降雨）が発生した場合に床上浸水リスクがあり、人命や資産に甚大な被害が生じるおそれがあることから、河川整備が必要不可欠である。また、気候変動の影響により降水量の増大などが予測されている。これらを踏まえると、継続して河川整備を進めることにより浸水被害を解消する必要がある。</li> <li>・現時点で再度、穂谷川の費用対効果を算出したところ、B/Cは88.7であり、河川整備の経済的便益性も確認できる。</li> <li>・「淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画（H27.3）」及び「大阪府都市整備中期計画（案）（R3.3改訂）」に位置付けて事業を進めており、R5年度末で、事業の進捗は48%程度である。</li> <li>・これまでも河道改修を推進し、治水安全度の向上に努めており、令和20年度の完成を予定している。</li> <li>・ストックヤードを活用し、工事用進入路を設置する際に使用する土砂の再利用を図り、また、工事により発生する土砂の他工事への流用を図る。</li> <li>・改修工事にあわせた河川への恒久坂路等の設置を検討し、コスト削減及び施工効率の向上を図る。</li> </ul> <p>以上の理由より、事業を継続。</p>
----------------	---

※氾濫解析の精査により、前回評価時点R1の浸水想定面積及び便益を一部見直しています。

# 令和6年度第2回大阪府河川整備審議会【資料2-1】の訂正について

・令和6年度第2回大阪府河川整備審議会【資料2-1 淀川水系淀川左岸ブロック穂谷川の河川整備の再々評価調書】におきまして、委員の意見を受けて、以下のとおり修正を行いました。

	修正前	修正後
ページ	2ページ	2ページ
修正箇所	<p>自然環境への影響とその対策  <u>多様な生物の生息・生育環境を保全するための対策</u></p> <p>①水質改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政指導や下水道施設等による水質改善とともに、地域住民、学校、NPO等と連携し、生活排水による河川への負担軽減に向けた環境教育・学習の推進、及び啓発活動等を進めたことにより、水質は維持されている。</li> <li>穂谷川における水質汚濁の環境基準はB分類に指定されており、前回評価時点と同様、環境基準を満足している。(淀川合流部地点)</li> </ul> <p>②生物移動の連続性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落差工の改築を多段式で行うなど、上下流の生物移動の連続性の確保に努めている。</li> <li>H24に比べ全体の傾向として、確認個体数が増加している。</li> <li>R1～R5年度の工事箇所におけるH24とR4の調査結果を比較したところ、<b>工事により重要種が居なくなるなどの大きな影響はみられない。</b>今後も工事による影響がないか、引き続き、環境調査を実施する。(淀穂枚1地点、淀穂枚2地点)</li> </ul>	<p>自然環境への影響とその対策  <u>多様な生物の生息・生育環境を保全するための対策</u></p> <p>①水質保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流域市の環境部局による行政指導や下水道施設の整備等により水質は改善されてきている。また、地域住民、学校、NPO等と連携し、生活排水による河川への負担軽減に向けた環境教育・学習の推進、及び啓発活動等を進めることにより、水質の保全に努めている。</li> <li>穂谷川における水質汚濁の環境基準はB分類に指定されており、前回評価時点と同様、環境基準を満足しており、<b>工事による大きな影響は見受けられない。</b>(淀川合流部地点)</li> </ul> <p>②生物移動の連続性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落差工の改築を多段式で行うなど、上下流の生物移動の連続性の確保に努めている。</li> <li>H24に比べ全体の傾向として、確認個体数が増加している。</li> <li>R1～R5年度の工事箇所におけるH24とR4の調査結果を比較したところ、<b>個別の魚種では増減があるものの、工事後の箇所においても継続的に重要種が確認されるなど、工事による大きな影響はないと考えられる。</b>今後も工事による影響がないか、引き続き、環境調査を実施する。(淀穂枚1地点、淀穂枚2地点)</li> </ul>
修正箇所	<p>その他特記事項</p> <p>-</p>	<p>その他特記事項                      (その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>堆積土砂については、現況のみお筋を可能な限り保全しながら土砂の撤去を行うなど河道特性に応じた維持管理を実施している。</li> </ul>